

# 東日本大震災復興支援プロジェクト活動報告書 (2011～2015年度)

メンバー	小澤涼子	2012～2015年度
	鹿内あずさ	2011～2012年度
	高桑暁子	2012～2015年度
	高橋弘子	2011年度
	田中さおり	2013～2014年度
	目時光紀	2011～2015年度
	百々瀬いづみ	2011～2015年度
	矢萩実幸	2015年度
	大倉亜矢子	2011～2012年度
	高山美香	2011～2015年度
	西村和奈	2013～2015年度
	松田ゆかり	2013～2015年度

学長	丸山知子	2011～2013年度
	武藏学	2014～2015年度



天使大学

## 1. プロジェクト立ち上げの経緯から活動終了まで

2011年3月11日に太平洋三陸沖を震源と東北地方太平洋沖地震が発生し、それに伴って発生した津波とその後の余震により東日本大震災が引き起こされました。

本学では、震災発生直後の3月15日に行われた卒業式と4月4日に行われた入学式に、葦の会(学生会)の学生たちの敏速な行動により募金活動を行いました。その後、助産研究科の学生や教員のボランティア等、個人的な立場で現地支援に参加しました。しかし、大震災の被害の大きさから、復興の長期化が予想され、大学としても長期の支援体制を図る必要があると考えました。そのため、丸山知子学長(当時)は、同年5月に教職員を対象に「東日本大震災に対する大学としての取り組み」の調査を行い、多くの意見やアイデアを基に、直轄プロジェクトとして、助産研究科の高橋弘子教授(当時)をリーダーに「東日本大震災支援プロジェクト」を立ち上げました。

プロジェクトの目的は、「大震災に対し、本学の理念の一環として被災地への支援を行うこと」とし、主な役割を被災地支援に関する体制づくり、情報の集約と発信、具体的支援の企画と運営、ボランティア活動支援、募金活動、教育講演会の計画と実施等としました。

被災地では多くのボランティアを必要としていましたので、「東日本大震災支援プロジェクト掲示板」を設置し、札幌教区サポートセンターのボランティア募集情報を中心に、学生や教職員へ情報提供しました。また、ボランティア活動に参加する際の注意事項などをまとめた「東日本大震災支援ボランティアマニュアル」を作成し、学生へ配布しました。

被災地でボランティア活動に参加した学生には、ボランティア活動報告会で参加の経緯や被災地の状況などを報告してもらいました。また、災害支援活動に詳しい札幌医科大学の岩本喜久子氏と特定非営利法人ピースウィンズ・ジャパンの藤嶋美世氏をお招きして、災害支援とボランティアに関する講演会を開催しました。

これらの活動の効果もあり、被災地でボランティア活動に参加した学生数は、2011年度の延べ7名から2012年度の延べ25名へと増加しました。

発災直後の被災地では必要品が不足していたため、支援物資として「机」「ミシン」「アイロン」「タオル」等を寄贈しました。また、とても辛い思いをしている被災された方々に向けて応援ボードを作成し、カトリック宮古教会に贈るなど、「心の支援」にも力を入れました。

当初の本プロジェクトの活動は、皆様からの支援金をもとに行っていました。頂いた善意は、初年度のみで319,874円に達しました。寄付をしてくださった方々には、この場をお借りして改めてお礼申しあげます。

本プロジェクトの活動は、被災地の支援だけではなく、その活動を学生の教育にも生かすことだとメンバー一同感じています。そのような考えのもと行った活動のひとつに「アレンジレシピ集～1つの料理がこんなに変わる！～」と「東北の食材を用いた季節のお祝いレシピ～心が和む折り紙を添えて～」の作成があります。前者は仮設住宅や避難所でも常備菜や保存食などで簡単に作れるレシピ集で、2012年6月に発行しました。後者は被災地の食材を活用した6つの行事食の作り方と、行事に合う折り紙の折り方付きのレシピブックで、2013年6月に発行しました。どちらも看護学科と栄養学科の学生が本学で学んだ専門知識を生かしながら作成し

たものです。

本プロジェクトは、2012 年度より名称に「復興」を加えて「東日本大震災復興支援プロジェクト」として活動することになりました。リーダーは、退職された高橋弘子教授から教養教育科の目時光紀講師(当時)へとバトンタッチし、ボランティア活動報告会や災害に関する講演会を引き続き開催しました。

特に 2012 年度からは被災地を盛り上げる目的で天使祭にも出店しました。ブースでは、被災地から取り寄せた産物を販売し(2012～2015 年度)、プロジェクトの活動をパネルやリーフレットを使って紹介し(2012～2015 年度)、被災地の写真も展示しました(2013 年度)。また、作成したレシピ集やレシピブックの料理を展示・販売し(2012～2015 年度)、2015 年度は災害への備えを改めて考える機会になるよう、防災用品を展示しました。

被災地でボランティア活動に参加した学生に対する交通費の助成額も最大 8,000 円から 20,000 円へ大幅に増額しました。この結果、ボランティアに参加する学生数が大幅に増加しました(なお、2015 年度の助成額は最大 25,000 円です)。

このように年を追うごとに活動を充実させてきましたが、年月が過ぎることにより、震災への関心や記憶が薄れてきたように感じています。ボランティア活動報告会も当初は 400 名以上の参加がありましたが、2014 年度は 60 名程度に落ち込みました。

被災地へもっと関心を持ってもらうために、2015 年度は「ボランティア活動報告会」に加え、「震災復興支援シンポジウム(2015 年 10 月)」および「震災復興支援ボランティア講習会(2016 年 1 月)」を開催しました。これらは掲示板で告知するだけでなく、プロジェクトのメンバーがそれぞれに機会を設け、直接参加を呼び掛けました。

当初は2年の時限付きプロジェクトとして立ち上がった本プロジェクトも、発災より約5年間活動を継続してきました。この間、延べ100名近くの学生が被災地へ赴き、ボランティア活動に参加しました。また、復興支援活動を学生の教育に生かし、専門職として不可欠な知識や技術の習得に役立てることを目的とした「ボランティア活動報告会」や「震災講演会」等も数多く開催しましたが、「東日本大震災復興支援プロジェクト」としての活動は2015年度末をもって終了することとなりました。

これまで多くの皆様に頂きました多大なる支援とご協力に、感謝申し上げます。

## 2. 5年間の活動経過一覧

### 1年目

2011年6月	学長直轄「東日本大震災支援プロジェクト」発足
2011年7月	節電活動実施 「ボランティアマニュアル」完成
2011年7月12日(火)	災害支援とボランティアに関する講演会開催
2011年7月22日(金)	教職員親睦団体「白樺会」での募金の呼びかけ
2011年7月28日(木)	「理事会」での募金の呼びかけ
2011年7月29日(金)	災害支援ボランティア報告会開催
2011年10月6日(木)	教職員親睦団体「白樺会」での募金の呼びかけ 「タキさんのお店」開店時の募金の呼びかけ
2011年11月7日(月)	札幌カリタスへ50,000円の義援金送金
2011年11月10日(木)	教職員親睦団体「白樺会」での募金の呼びかけ 「タキさんのお店」開店時の募金の呼びかけ
2011年11月11日(金)	ボランティア活動報告会開催
2011年11月14日(月)	ミシン、アイロン等を支援物資として提供
2011年11月30日(木)	大学ホームページ内に震災支援に関するページの開設
2011年12月15日(木)	「タキさんのお店」開店時の募金の呼びかけ
2011年12月21日(水)	「教職員クリスマス会」での募金の呼びかけ
2011年12月22日(木)	メッセージボード送付
2011年12月26日(月)	新古品タオルを支援物資として提供
2012年2月21日(火)	フリース等の衣類を支援物資として提供
2012年3月5日(月)	被災地用レシピブック試作会



## 4年目

2014年4月	ボランティア参加学生への旅費補助額を20,000円に増額決定
2014年6月14日(土)	天使祭出店 ①活動内容の紹介                      ②被災地の産物販売 ③被災地の産物を使った料理の提供(せんべい汁屋)
2014年7月15日(火)	ボランティア活動報告会・説明会・意見交換会開催
2014年12月18日(木)	「教職員クリスマス会」での募金の呼びかけ
2014年12月末	天使大学リポジトリへレシピ集(2種)収載
2015年1月13日(火)	ボランティア講演会・ボランティア活動報告会開催
2015年3月11日(水)	「ホットニュース北海道」(NHK 札幌放送局)で、本プロジェクト 作 成のレシピブックの紹介と学生による調理の様子が生中継される

## 5年目

2015年6月2日(火)	ボランティア活動報告会
2015年6月13日(土)	天使祭出店 ①活動内容の紹介                      ②せんべい汁の販売 ③被災地の産物販売                      ④防災グッズの展示
2015年10月22日(木)	震災復興支援シンポジウム開催
2016年1月15日(金)	震災復興支援ボランティア講習会開催
2016年3月31日(木)	「東日本大震災復興支援プロジェクト」活動終了

### 3. 5年間の活動の評価

#### (1) 復興支援活動

##### ① 学生ボランティアの支援

「東日本大震災復興支援プロジェクト掲示板」を通じて札幌教区サポートセンターと仙台教区サポートセンターのボランティア募集情報を中心に、情報提供を行いました。タイムリーな情報を提供できたことは大変良かったと感じていますが、他団体のボランティア募集情報も掲示できれば、学生のボランティア活動の幅が広がったのかもしれない。

一方、「東日本大震災支援ボランティアマニュアル」を作成したことで学生が安全にボランティア活動に参加できたことは大変評価できていると感じています。幸いなことに、ボランティア活動中に怪我をしたり、事故に巻き込まれた学生はいませんでした。

交通費の助成も、学生がボランティア活動に参加する際の一助となったと感じています。

ただ、予算の関係で毎年助成額の上限を変更しなければなりません。2011年度は 8,000 円、2012年度は 20,000 円、2013年度は 15,000 円、2014年度は 20,000 円、2015年度は 25,000 円としましたが、被災地への往復の交通費はおおよそ 25,000 円程度であり、2015年度を除き、学生の交通費に対する負担額は少なくありませんでした。

## ② ボランティア活動報告会の実施

ボランティア活動報告会を年に 1~2 回開催し、被災地の現状やボランティア活動の内容を知る機会としました。ボランティア活動に参加した学生の多くが報告会に参加して被災地へ赴くことを決めたと聞いており、参加のきっかけを作れたことは評価できると考えています。

また、ボランティア活動報告会の開催は、参加した学生はもとより、報告者として登壇した学生への教育に生かされたと感じています。報告者はパワーポイントを使って参加の経緯や現地での活動内容、被災地の現状などを報告しましたが、自らの行動を振り返る機会となり、また、作成および発表の過程でプレゼンテーションのスキルを磨くことができたと考えています。

しかしながら、出席した学生にとっては報告者の話に耳を傾けるだけの極めて「受動的」な活動だったとも言えます。2014年度は意見交換会を企画し、2015年度は被災地の現状に関するシンポジウムも開催しましたが、学生がより積極的に参加できるような機会を設定するという点では改善の余地があったと思います。

また、2013年度と 2014年度の報告会は参加者が激減しました。告知方法を見直すことで 2015年度は参加者が増加しましたが、報告会のあり方については課題が残りました。

## ③ 天使祭への出店

2012年度から天使祭に出店し、被災地の産物を販売しました。販売した産物は毎年完売するなど、被災地への関心を持ってもらう良い機会となったと思います。また、本プロジェクトの活動をパネルやリーフレットにまとめ、出店期間中はブースの近くに展示しました。本学の建学の精神である「愛をとおして真理へ」を具現化していることを地域の方々を知って頂く良い機会となったと感じています。

ブースでは、発行した「レシピ集」や「レシピブック」の料理を、来場者の方々に無料（年度によっては有料）で提供しました。このような活動を通じて被災地の食材や郷土料理に関心をもって頂いたのは大変素晴らしいことだったと感じています。

## (2) 情報の一元化

5年間を通して、募集情報等のボランティアに関連した情報は「東日本大震災復興支援プロジェクト掲示板」を通じてタイムリーに提供できたと感じています。また、開催した報告会

や講演会、シンポジウムや講習会の報告を本学のホームページ(「東日本大震災に対する本学の取り組み」)に掲載することで、学内外に本プロジェクトの活動を知ってもらうことができました。

### (3) 支援の企画・運営

発災当初は、被災地で物資が不足しており、タオルなどの緊急支援物資を被災地へ送ることが大きな役割のひとつでした。メンバーが一致団結し、大変スムーズに送ることができたと感じています。また、復興支援活動に従事しておられる方々をお招きして講演会や講習会、シンポジウムを開催できたことも非常に良かったと考えています。

一方で、学生の教育に直結した活動にもっと力を入れることができたのではないかと感じています。本学ではボランティアに関する科目が開講されていません。プロジェクトの立ち上げ当初は、本プロジェクトの活動をこのような科目の開設に繋げることができれば、学生自らの力で支援組織を立ち上げたり、自由な発想で支援活動を推進したりできるのではという構想もありましたが、様々な要因から実現することができませんでした。

## 4. ボランティア活動助成金について

被災地でボランティア活動に参加した学生の交通費補助を目的として、8,000 円を上限とした助成金の制度を設けました。制度を設けるにあたって、天使大学後援会にご相談させて頂きましたところ、快くお引き受けくださり全額、後援会から助成いただくことができました。

その後、ボランティア報告会等で学生から交通費の負担が大きい旨の発言があったことを受けて再検討し、天使大学後援会からの助成が 15,000 円(上限)に増額されました。さらに、それを上回る額については皆様から寄せられました支援金より捻出し、2015 年度は助成金の上限を 25,000 円に改めることができました。

今年度をもって本プロジェクトの活動は終了しますが、学生への助成については継続して行いたいという思いから天使大学同窓会にご相談させて頂きましたところ、ご賛同頂くことができ、引き続き学生への交通費助成を行えることとなりました。

また、これまで助成を頂いていた天使大学後援会にも、引き続きご支援いただけるようお願いしています。

この交通費助成は、本学学生が継続して被災地に赴きボランティア活動に参加できることの要因のひとつと考えています。

長くご協力いただきました天使大学後援会、新たにご賛同いただきます同窓会には厚く感謝申し上げます。

## 活動を振り返って

本プロジェクトに携わるまで、私はボランティア活動とは縁遠い生活を送っていました。「自分のことで手が一杯だから」と自分にいつも言い聞かせていました。

活動 2 年目より、私はリーダーとして本プロジェクトを引っ張っていくことになり、助成金の申請時に学生から提出されるボランティア活動報告書を毎回読むことになりました。報告書には、被災地の厳しい現状の他に、活動を通じて学生たちが学んだことやボランティア活動に今後も参加したいという気持ちが書いてありました。正直、自分が大変恥ずかしく感じました。自分のことしか考えていない自分に対して、学生たちは他者を思い、また他者を思うことで自分を成長させているのです。

教員という立場から、学生たちが被災地でのボランティア活動を通じて、何かを感じ、何かを学び、自分を成長させている姿を見て、いつも大変嬉しく感じていました。また、そのような機会を学生に提供できたことを大変嬉しく思います。

東日本大震災復興支援プロジェクトの活動は終了しますが、被災地には不自由な生活を強いられている方や大変な思いをされている方がまだまだ沢山いらっしゃいます。今後も一市民として、なんらかの形で被災地を応援していければと感じています。

最後に、本プロジェクトが 5 年間何事もなく活動して来られましたのは、皆様からのご支援やご声援のおかげだと感じています。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

東日本大震災復興支援プロジェクト

リーダー 目時光紀